授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の英語科の未来へバトンをつなぐ

英語科
授業づくり講座
宿毛市立小筑紫小学校

-発行-
令和４年７月
西部教育事務所

西部管内の
講座関係ＨＰ

第４学年　外国語活動　I like Mondays.

目標 世界の同年代の子供たちの生活を知るとともに、自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、好きな曜日や生活について相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりして伝え合う。

＜関係する領域別目標「話すこと［やり取り］イ＞

授業者
HRT　森田 絵梨奈
ALT　ステファニー・リュ
JTE　山下 幸甫

講師による指導・助言

講師：文部科学省初等中等教育局
直山 木綿子 視学官
今回は、リモートで、ご指導をいただきました。

外国語活動と外国語科の違い

「外国語活動が、外国語科に引っぱられている」というご指摘をうけ、外国語活動と外国語科の違いについて学びました。
　それぞれの目標を確認すると、
外国語活動：コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成
外国語科　：コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成
と示されています。
　素地と基礎には、どのような違いがあるのでしょうか。

教材研究会

定着は…

　領域別の目標を比較すると、
外国語活動：～するようにする。
外国語科　：～できるようにする。
と示されています。（外国語科「読むことイ」を除く）
　外国語活動は、言語材料についても「慣れ親しむようにする」ことを目指しています。
　「定着」は求めないので、次の単元で忘れていても大丈夫、単語で伝えても、時には日本語でもかまいません。

指導に当たって
【発信語彙】については、新しい語句や表現をどんどん増やしていくのではなく、「これまで使った表現で話ができた！」という経験をさせていきます。
【受容語彙】については、発信語彙より少し難しい表現についても視覚支援とともに聞かせ、「何となく分かった！」という経験をさせていきます。
子供たちが、コミュニケーションの楽しさを味わえるようにしていきましょう。

単元を描く

【単元ゴールの言語活動】自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをよく知ったりするために、好きな曜日や生活について伝え合う。

	（第１時）	（第２時）	（第３時）	（第４時）【本時】
目標	単元ゴールのイメージをもち、世界の子供達の生活を知るとともに、曜日の言い方に慣れ親しむ。	お互いの一週間の生活をもとに、友達と好きな曜日について尋ねたり答えたりして伝え合う。	友達に自分のことをもっと知ってもらったり、友達のことをもっとよく知ったりするために、相手に伝わるように工夫しながら好きな曜日について伝え合う。	**自分のことをよく知ってもらったり、相手のことをもっとよく知ったりするために、好きな曜日とその日の生活について相手に伝わるように工夫しながら伝え合う。**
主たる学習活動 ●評価場面	○Let's Listen ・教師がイラストや動作とともに話したことを聞いて、どの曜日の予定なのかを答える。	○Let's Play② ・自分の一週間の予定について曜日クイズをする。	●Activity ・好きな曜日を尋ね合い、好きな曜日が同じ友達を見つける。 (Chromebook で録画)	●Activity **好きな曜日や生活について伝え合う。** **［先生→友達］(Chromebook で録画)**

本時を描く

Do　まず先生に話すことで

先生たちと話すことで、前時に友達と話した時よりも「うまく伝わった」「長くやり取りができた」という実感することができました。

Learn　中間指導で

T：先生と話して気付いたことは何だろう？

子供から工夫点がたくさん出てきました。
☆反応やジェスチャーが自分達よりも上手。
☆知らない英語もあったけど、ゆっくり話してくれた。
☆質問してくれた。
☆間違ってもフォローしてくれた。
担任の先生は、**「何と質問されたの？」**と子供たちも使えるように具体的な表現に落とし込んだり、**「どの工夫を使ってみる？」**と子供たち全員が考えられる時間をとりました。

Do again　再度やってみることで

２回目のチャレンジでは、相手を意識したやり取りへと変容が見られました。

Learn　中間指導で

変容した子供の姿を“Good Model”にすることで、
☆顔の表情も大事。
☆間違えてもフォロー。
☆質問していた。
☆ゆっくり話していた。
と、気付きました。

Do again　昨日話した友達とやってみることで

最後は、昨日話した友達と話す様子を Chromebook で録画し、昨日の自分と比較して成長を実感していました。

研究協議

中間指導
～指導と評価の一体化～

グループ協議の意見
- **コミュニケーション力が高い集団の子供たちから、多くの気付きを上手く引き出し、板書にまとめていた。**
- **子供は、どんなことをやったらいいか考えをもったうえで、言語活動に取り組めていたので「できた！」という達成感をもつことができていた。**
- **前時も工夫していたジェスチャーや反応についても、先生とのやり取りを通して、必要な工夫だと確信することができていた。**
- **質問については、どんな表現だったのかもう少し丁寧におさえていくと、これまで使った表現だということに気付いたのではないか。**

担任の先生は、目指す子供の姿を明確に持っていたことで、的確に中間指導を入れながら、子供の変容へとつなげていくことができていました。
また、ALT の先生と中学校教諭からのフィードバックも的確で、それぞれの役割をうまく生かした授業実践でした。

ALT：子供ができるようになった工夫点を価値付けするとともに、自然と話したい気持ちをジェスチャーで表現できていた子供をとりあげ、コミュニケーションの大切さを伝えてくれました。

中学校教諭：今回は質問をする子供が少ない中で、What Pokemon do you like?と質問した子供を見つけ、これまで使った表現をうまく活用していたこととして評価してくれました。